



”幸せな帰町・復興“へのメッセージ

震災から4度目の新年を迎える思い

平成26年1月に「ふる里復興・再生、希望の年」と位置づけてスタートしてから、これまでに多くの課題への取組を進め、町職員一体となって復興のために全力で取り組んでおります。

平成27年4月には、県立中高一貫校「ふたば未来学園高等学校」が開校いたします。双葉郡内外から明るく希望に満ちた高校生たちが集い、躍動し成長する姿を想像すると、弾む思いがこみ上げてまいります。広野駅東側地区については、産業団地の形成により生活の場と働く場のゾーニング

を図り、企業の進出により雇用や賑わいを創出することで、新しい時代のまちづくりに向けた復興の原動力にまいります。

JR常磐線が広野駅から竜田駅まで運転を再開した際に列車が線路を走る音を耳にして感動したこと、福島民報社より県下一の消防団に贈られる「民報金ばれん」を広野町消防団が受賞した際のパレードで町内を力強く歩む団員を目の当たりにして名誉と誇りを感じたこと、こうした喜びをこ

策を鋭意進めてまいります。

1 除染対策

除染については、山林を除いてほぼ終了しているところではありますが、去る平成26年6月に設置した「広野町除染等に関する検証委員会」における検証結果等を踏まえ、安全・安心に向けた取組を推進してまいります。

2 放射線対策

新たに開設した広野町放を活かした広域的な防災の拠点、町内外生活者の地域コミュニティ交流施設などの機能を備えた「防災拠点道の駅ひろの」（仮称）の整備について、検討を進めてまいります。

射線相談室を中心に、町民の皆さまの心のケアと、放射線に関する正確な情報の共有化を図ってまいります。

3 安全・安心の確保

誰もが安心して暮らせるまちづくりのために設置した「広野町安心・安全ネットワーク会議」を中心に、地元企業、復興業務のために町内に事業所を設置する企業、警察、消防、警戒パトロール隊との連携強化を図って参ります。子どもたちの安全確保に万全を期す

るため、広野小学校・広野中学校・ふたば未来学園高等学校への通学路を含むエリアに見守りカメラを設置してまいります。

4 医療体制の充実

医療に関しては、震災後いち早く高野病院、馬場医院が診療を再開しており、また、平成26年7月には新妻歯科医院が診療を再開するなど、医療体制の整備は着実に進んでおります。しかしながら、現在、看護師など、医療従事者を確保することが多くの医療機関に

とって共通の課題となっていることから、町内の医療機関のご要望を伺いながら、県ならびにいわき市などとの連携を強化し、医療体制のさらなる充実を図ってまいります。

5 農業の振興

今年の水稲作付けの再開は、作付面積にして154ヘクタール、その農家は132戸となり着実に営農再開が進んでおり、国の補助事業等を活用してほ場整備事業を実施するなど農業再生の環境整備を推進し、農家のさらなる収益向上を後押ししてまいります。

7 雇用の創出

広野駅東側開発地区や工業団地への新規企業の誘致を進めるとともに、商業施設の整備や火力発電所の増設工事の確実な着手などによって、雇用の場のさらなる充実を図ってまいります。

8 防災拠点の整備

東日本大震災の被災経験

を

を

を

『全町民の皆さま
幸せな帰町・復興に向け
ふる里にて共に歩みたい
と願っております。』

平成26年12月

広野町長 遠藤 智

